

『百人一首がよくわかる』(2016年)

橋本 治／著 講談社

本書では、鎌倉時代に成立した有名な歌集『百人一首』に、大胆な現代語訳を付し解説しています。「昔の言葉にすると、とても深い内容で、美しいイメージがあるように見えるのです。」と序文にあるように、和歌という「雅^{みやび}で格調高く難しいもの」という印象はありませんか。この本の現代語訳はとてくだけていて、百人一首に詳しくない方なら「そんなことを言っていたのか!」という驚きがあるでしょう。また、詳しい方なら斬新^{せんしん}な訳から新たな発見をするかもしれません。



『QED 百人一首の呪い』(1998年)

高田 崇史／著 講談社

世間の人が^{きかきでん}榊御殿と呼ぶ屋敷内で主が^{ごんまつ}惨殺された。彼の手にはダイイング・メッセージだと思われる、一枚の百人一首の札が握られていた。この札が意味することは何なのか。この家の住人や家族のアリバイを追う警部、ひょんなことから事件にかかわることになった薬剤師たち。彼らの見事な推理で解決に向かう。謎解きのために歌の説明や作者の事について多くの知識が話に散りばめられていて、藤原定家が^{へんぎん}編纂した百人一首について詳しくなれます。



『恋する「小倉百人一首」』(2011年)

阿刀田 高／著 潮出版社

子どものころに聞いた古典落語「千早振る」がきっかけで百人一首に興味をもった作者、阿刀田高のエッセイです。このエッセイでは小倉百人一首を作者の体験談と独自の現代風の解釈を織り交ぜて、ときには冷やかしながら、ときには疑いながらおもしろおかしく紹介していきます。阿刀田高にかかれれば情熱的な恋の歌もただの姉妹の恋の相談話に！なじみのある人も多い正月に行う華やかで伝統的な遊びをもう一度見直して楽しんでみませんか？



『古文書入門

『くずし字で「百人一首」を楽しむ』(2010年)

中野 三敏／著 角川学芸出版

みなさん、くずし字は読めますか？美術館や博物館などで展示されている巻物や掛け軸などで見たことがあるかもしれません。ぐによくよと書かれている線を普段私たちが使っている文字のようにスラスラと読めるようになるには訓練が必要になってきます。そこで本書はなじみのある百人一首の歌をつかってくずし字に親しめるようになっています。また、同時に歌の^{かいしやく}解釈も載っているので、和歌も楽しんでください。

『一冊でわかる百人一首』(2006年)

吉海 直人／監修 成美堂出版

百人一首といえばカルタをイメージする人も多いかもしれませんが、そこに載っている三十一文字のなかにはそれぞれ歌人の人生や恋、四季や自然の美しさなどが表現されています。この本を使って歌人たちが短い文章に込めた意味をひもといってみませんか。古典や和歌の基礎知識も載っているので、文法の理解にも役立ちますよ。



『百人一首の謎を解く』(2016年)

草野 隆／著 新潮社

百人一首は、多くの家庭にあり身近な古典作品といえます。藤原定家が小倉山荘で選んだとされていますが、この本では謎が多くあると述べられています。当時の日記などに定家を作った記録がないこと、小倉山荘が存在しないことなどがあげられています。一体誰が何のために作ったのか、多くの謎を解き明かすべく、定家だけでなく色々な歌集や歌人についても考察されています。百人一首にない和歌もたくさんあって楽しめます。

